

九大拠点に人材育成

福岡県大川市と九州大学は二十二日、インテリア産業振興に向けての協力協定を締結し、共同記者会見を行った。その中で植木光治・大川市長は、後継者育成を目的とした「大川インテリア大学」(仮称)を、九大と協力して立ち上げる構想を明らかにした。

会見で植木市長は「大川インテリア大学の立ち上げに向け、九大に人、技術、そして設立ノウハウの提供を期待している」と述べ、現在三年間をめどに開講している大川インテリア塾の常設化を目指す

インテリア産業 振興へ協力協定

大川市と締結

方針を示した。一方、佐藤陽彦・九州大学大学院芸術工学研究院長は「産学官連携は情報技術(IIT)分野などで進んでいるが、伝統産業については遅れている。全国のモデルケースになれば」と、地場産業との協力関係構築に意欲をみせた。

大川市は、日本一の家具産地として知られているが、主力の婚礼家具の需要低迷や輸入家具の急増などで売上高が激減している。二〇〇四年度には福岡県が策定した「大川インテリア産業リバイバルプラン」に基づき、ブランド確

専門の「大学」も構想

立、販路拡大、人材育成の三つの柱で再生への取り組みに着手。大川インテリア塾の開講や、ブランド立ち上げを現実させてきた。九大が調整役となり開発された新ブランド「SAJICA(サジカ)」のアンテナショップも年内に東京に開設、販売開始を目指す。

今回の協定締結は、こうした取り組みを加速させるもので、両者は今後、これまで個別の研究室などで行ってきたデザイン開発や人材育成、販路開拓の分野で包括的に協力していく。